

平成30年度 第6回キッズ・モニターアンケート

「手話（しゅわ）について」実施報告

アンケートの実施結果は以下のとおりでした。
キッズ・モニターのみなさん、ご協力ありがとうございました。

実施概要

1. 実施期間 平成31年1月18日～2月6日
2. 回答者数 201名
3. 回答率 38%

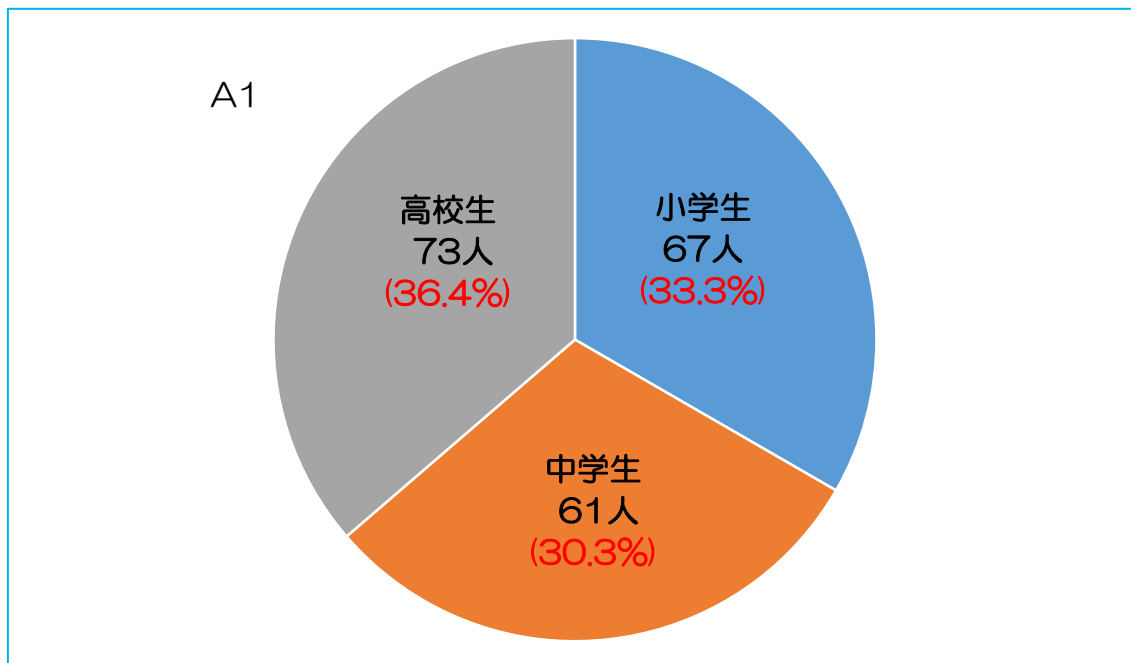
アンケート結果概要

Q1 あなたの年代について【1つえらぶ】

あなたの年代はどれですか？

- ① 小学生 ② 中学生 ③ 高校生

今回答えていただいた方の年代は、下の表のようになりました。

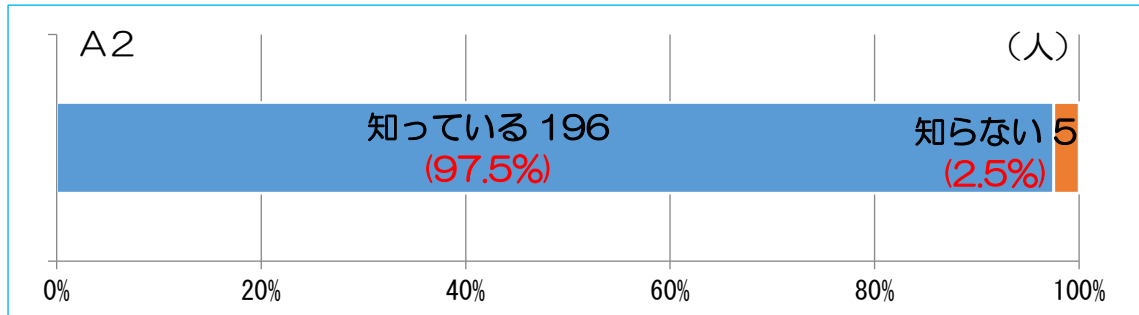


Q2 手話について(1)【1つえらぶ】

あなたは、「手話」というものがあることを知っていますか？

※手話が使えなくてもかまいません。

- ① 知っている ② 知らない



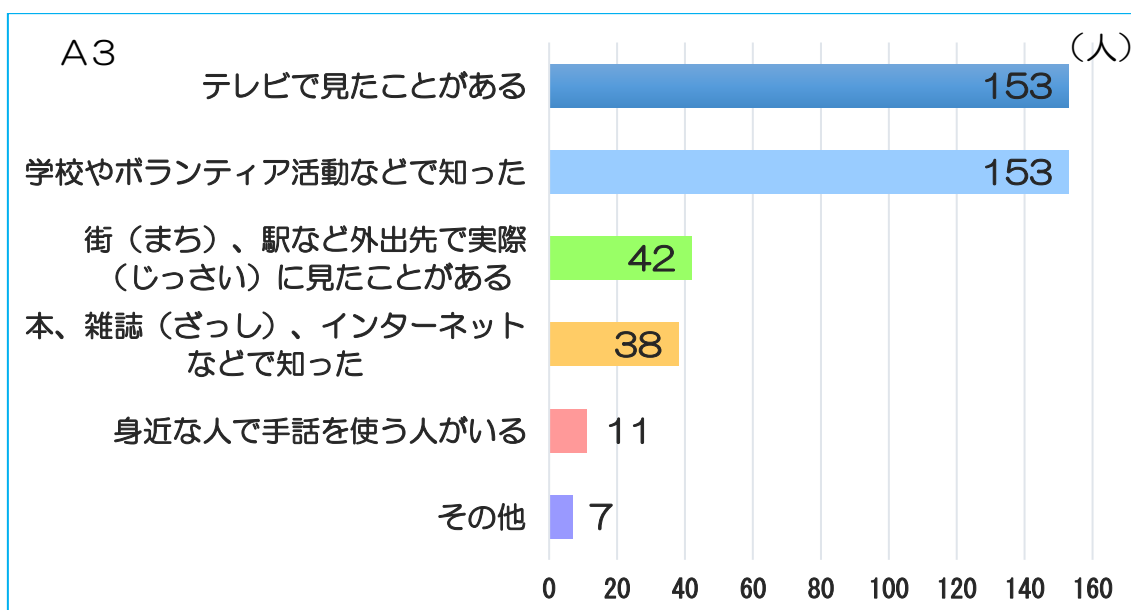
ほとんどの方が「手話」があることを知っていることがわかりました。

Q3 手話について(2)【いくつでも】

Q2で「知っている」と答えた人にお聞きします。

「手話」をどのようにして知りましたか？あてはまるものすべてをえらんでください。

- ① テレビで見たことがある
- ② 学校やボランティア活動などで知った
- ③ 本、雑誌（ざっし）、インターネットなどで知った
- ④ 身近な人で手話を使う人がいる
- ⑤ 街（まち）、駅など外出先で実際（じっさい）に見たことがある
- ⑥ その他

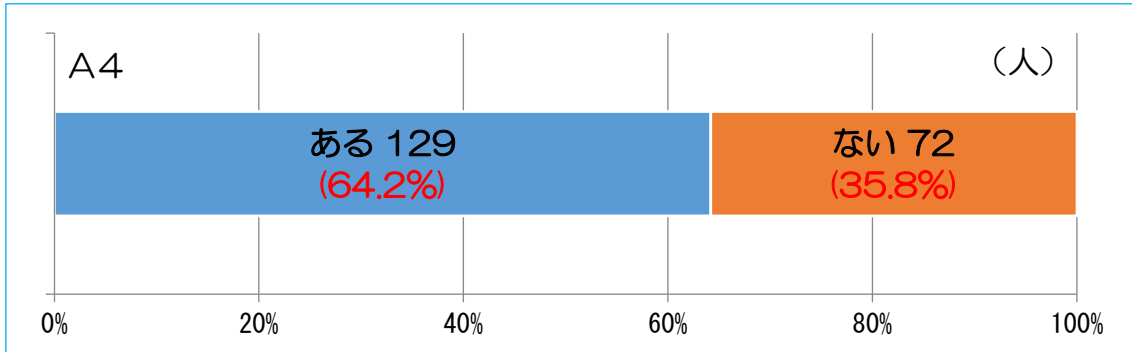


「手話」はテレビや、学校、ボランティア活動などで知る方が多いことがわかりました。

Q4 手話にふれる・学ぶことについて(1)【1つえらぶ】

あなたは、これまでに、手話を使う人に会ったり、手話を学んだりしたことがありますか？

- ① ある ② ない



	小学生	中学生	高校生
ある	67%	66%	60%
ない	33%	34%	40%

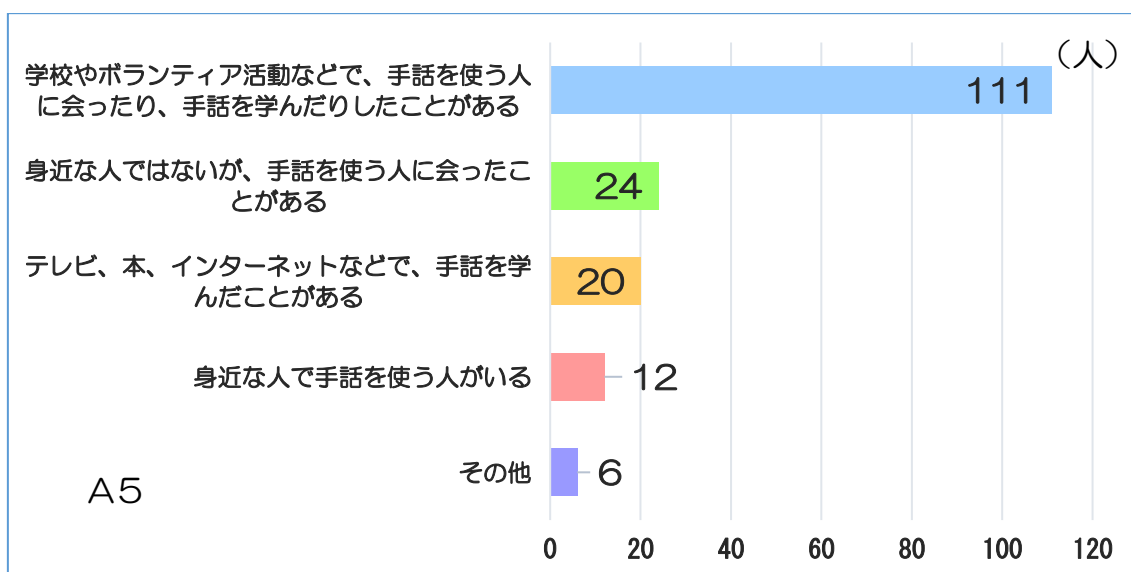
10人のうち6人が、手話を使う人に会ったり、手話を学んだりしたことがあったことがわかりました。また、年代が低くなるほど、手話にふれる・学ぶことについて「ある」ことが多いという結果になりました。

Q5 手話にふれる・学ぶことについて(2)【いくつでも】

Q4で「ある」と答えた人にお聞きします。

それはどのような場面でしたか？あてはまるものすべてをえらんでください。

- ① 学校やボランティア活動などで、手話を使う人に会ったり、手話を学んだりしたことがある
- ② テレビ、本、インターネットなどで、手話を学んだことがある
- ③ 身近な人で手話を使う人がいる
- ④ 身近な人ではないが、手話を使う人に会ったことがある
- ⑤ その他

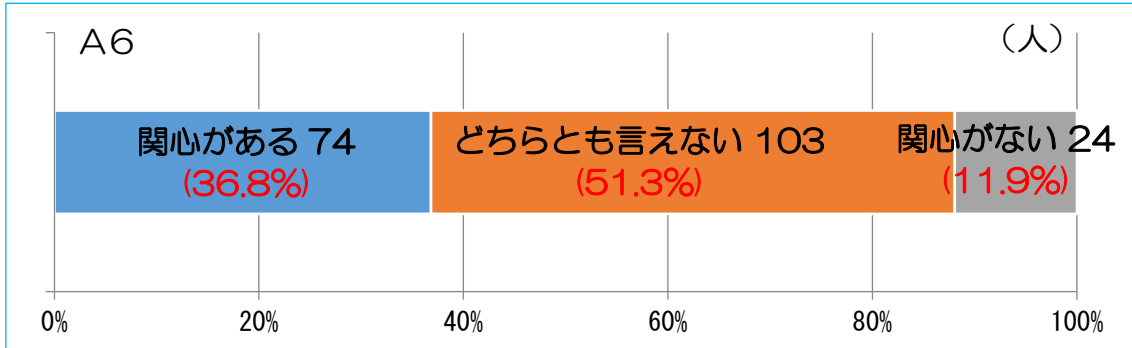


Q3の結果では、手話を知るのはテレビ、学校、ボランティアなどでしたが、実際に手話に「ふれる」・「学ぶ」のは学校やボランティア活動が多いことがわかりました。

Q6 手話への関心について【1つえらぶ】

あなたは、手話に関心がありますか？

- ① 関心がある ② どちらとも言えない ③ 関心がない



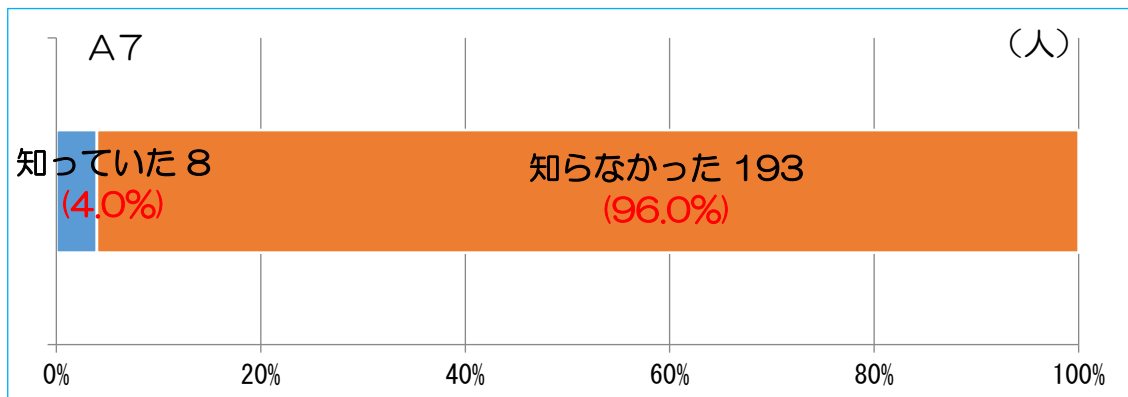
	小学生	中学生	高校生
関心がある	45%	39%	28%
どちらとも言えない	42%	51%	60%
関心がない	13%	10%	12%

年代が高くなるほど、手話への関心について、「どちらとも言えない」が多いという結果になりました。

Q7 三重県手話言語条例について【1つえらぶ】

あなたは、平成29年4月1日に「三重県手話言語条例」ができたことを知っていましたか？

- ① 知っていた ② 知らなかった



三重県手話言語条例について、「知っていた」は、前回調査（平成30年1月実施）の4.1%からほとんど変化がなく、依然として知られていない状況です。

「三重県手話言語条例」では、手話は、ろう者（耳が聞こえず、手話を使っている人）がコミュニケーションをとるための大切な「言葉」であることや、県は、手話を使いやすい環境づくりを進めること、また、県民のみなさんの役割として、手話への理解を深めていただくこと、などを定めています。

三重県では、条例に基づく取組を進めることにより、聞こえる人とろう者が、おたがいを尊重（そんちょう）し、だれもが手話に親しみ、手話が広く利用される社会になることをめざしています。



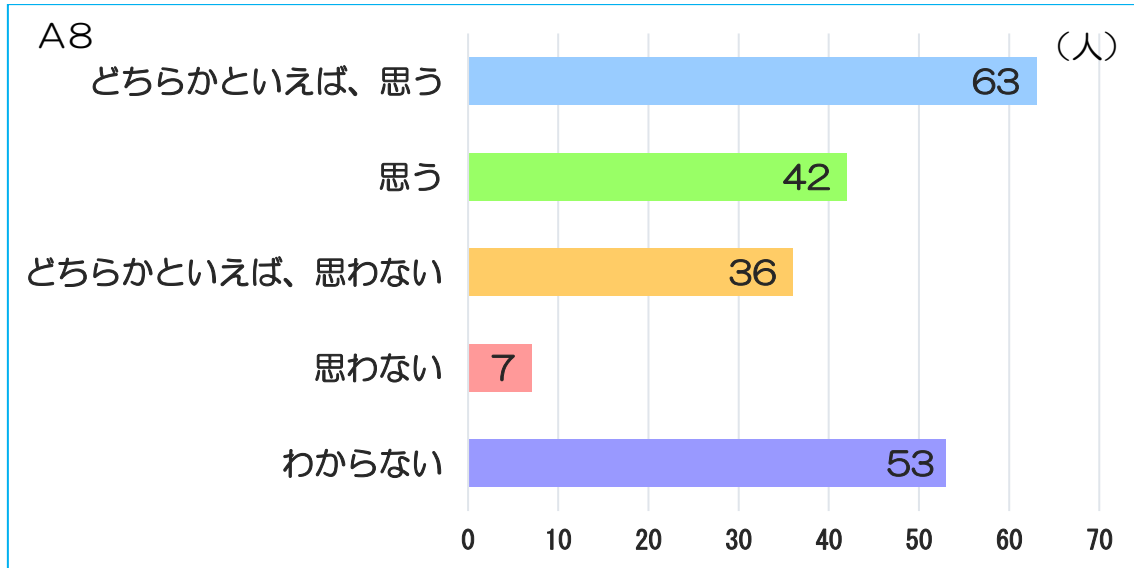
「できるカモン」

一般社団法人三重県聴覚障害者協会
マスコットキャラクター
(手話をしている様子を表しています)

Q8 ろう者について【1つえらぶ】

あなたはろう者（耳が聞こえず、手話を使っている人）と話したいと思いますか？

- ① 思う
- ② どちらかといえば、思う
- ③ どちらかといえば、思わない
- ④ 思わない
- ⑤ わからない

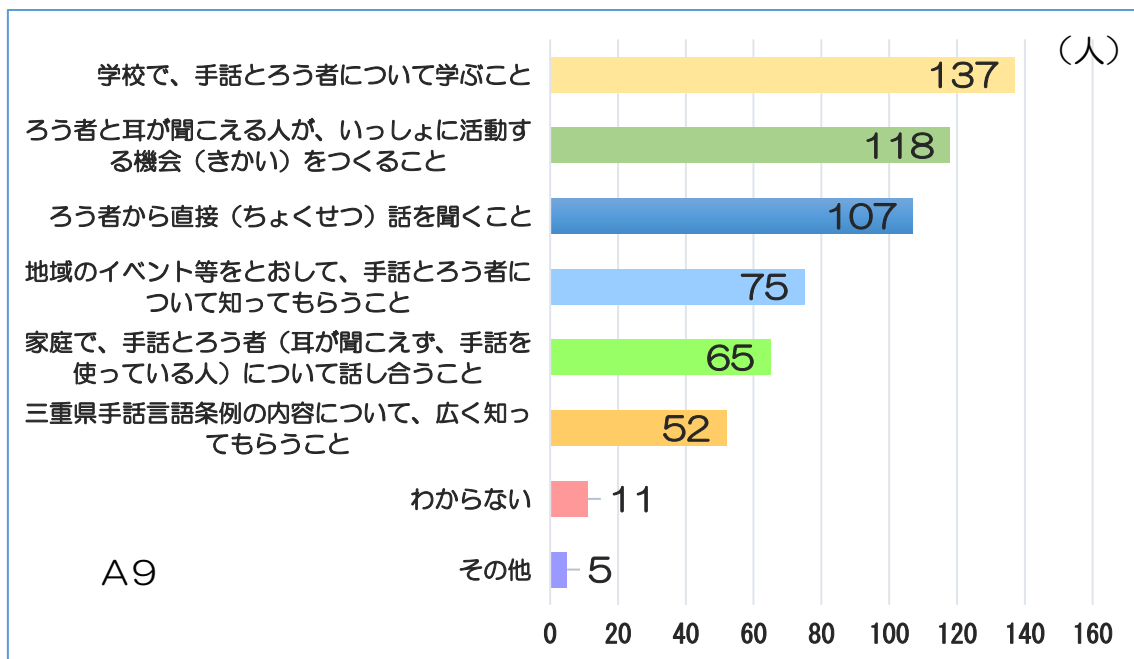


「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」とする回答が半分を占めているものの、「わからない」とする回答も多く寄せられました。

Q9 「手話」が使われるために必要なことについて【いくつでも】

あなたは、「手話」がたくさんの人に使われる三重県になるためには、どのようなことが必要だと思いますか？あてはまるものすべてをえらんでください。

- ① 家庭で、手話とろう者（耳が聞こえず、手話を使っている人）について話し合うこと
- ② 学校で、手話とろう者について学ぶこと
- ③ ろう者から、直接（ちよくせつ）話を聞くこと
- ④ ろう者と耳が聞こえる人が、いっしょに活動する機会（きかい）をつくること
- ⑤ 地域のイベント等をとおして、手話とろう者について知ってもらうこと
- ⑥ 三重県手話言語条例の内容について、広く知ってもらうこと
- ⑦ わからない
- ⑧ その他



「手話」がたくさんの人に使われる三重県になるためには、多くの方が「学校で、手話とろう者について学ぶこと」が必要と考えていることがわかりました。また、「ろう者と耳が聞こえる人が、いっしょに活動する機会をつくること」や「ろう者から、直接話を聞くこと」といった交流の場が必要という回答も多く寄せられました。

Q10 あなたの持っている「手話」のイメージについて【自由回答】

あなたの持っている「手話」のイメージについて、教えてください。

(例 耳が聞こえない人のことばである。かっこいい。むずかしそう。など)

「むずかしそう」「おぼえるのがたいへんそうだ」などが多い一方で、「使う人はすごい」「かっこいい」なども目立ちました。

いくつかの意見を選びましたので、紹介します。

- 学校の授業で手話も取り入れていけば、もっと障がいという壁がなくなるのではないかと思います。
- 耳が聞こえない人にとっては大切なツールであるとわかっていても、耳が聞こえる人にとってはほとんど馴染みがない。
- 難しそうだけど、出来るようになったらすごいと思う。
- 耳が聞こえない人にとってはとても重要なコミュニケーションツールなのでもっと健常者にも知れ渡るべきだと思います。
- 小学校で歌に手話を付けて歌って手話を身近に感じ、テレビや何かで手話を見聞きすると覚えたくまりました。会話になると早くて難しいと思いました。
- 耳が聞こえない人の大切な言葉で他の人とかわりあえるようにすること。自分もやってみて楽しかった。
- 家族や親族にろう者がいないのであまり必要と感じなかった。難しそうだけど簡単な手話は覚えてみたい。
- したことがあって、むずかしかったけど、またやってみたいと思う。
- 手話ニュースはわかりやすく、手話の人の気持ちが見ていてよくわかる。手話をされる人は、気持ちを顔でも表現するから表情豊かで、ステキだしかっこいいなって思うし、耳の不自由な方とコミュニケーションに役立つから、私も手話ができるようになりたいなと思う。